

## 表情が子どもに与えるもの

現在 9 か月になる息子がおります。

普通の生活の中で、オムツを替えたり、食事を介助したり、散歩や一緒に遊んでいる時など……

本当に息子とよく目が合うので、それだけ私のことをよく見ているんだなと思います。

目が合うたびに笑い掛けてくれるので、その笑顔を見ると私も嬉しい気持ちになり、一日の中で数えきれないほど何度も何度もあやしてしまいます。

家事をしつつ少し離れたところから息子の様子を見ながら、私が目を大きく開けたり、面白い顔をしたりとすると、どんな小さな変化にも気付いてキャッキョと声を出して笑っています。

そして最近のお気に入りの絵本は『かお かお どんなかお』で、中でも“いたずらなかお”のページが大好きで、私の声（抑揚）と顔の変化を楽しんでいます。

現在まだ、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスク生活が長期的に続いていますね。

園でも保育士全員がマスクを着用して日々子どもたちと関わっているので、子ども達には表情が伝わりづらいと思います。

脳の発達には『感受性期』と呼ばれる環境の影響を特に大きく受ける時期があります。

視覚情報をつかさどる『視覚野』は生後 8 か月頃から就学前くらいまで、環境の影響を受けて変化するとも言われています。

特に乳児は、目や口がダイナミックに動く表情を目にすることで、喜びや怒りなど相手の感情を理解する能力を発達させていきます。

また、相手が口から発する音声とそれに伴う口の動きの視覚情報を統合しながら、言語を獲得していきます。

相手の表情を理解し、その表情や音声を真似することで、相手の心を想像する力や共感する心などを発達させていく。

正にこの乳幼児期にこそ、獲得させたいことですね。

子どもは、口の動きを真似したり、人の表情から気持ちを読み取ったりしているので、マスクで表情が見えないと不安になることもあるかと思います。

園としては、安全への配慮をしながら、子どもの成長のために、『表情』を伝える工夫をしています。

ご家庭でもマスクを外してコミュニケーションを取る時間は、子どもの脳と心の発達を促すために表情を意識的に見せて関わって下さいね。

(池之座)

